

【睦合北地区】令和5年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和5年7月5日(水) 午後3時55分～午後4時50分
 会 場: 睦合北公民館 大会議室
 参加者: 地区の自治会長(5名)、公民館地区館長
 市長、副市長、教育長、政策部長、市長室長、地区市民センター所長

自治会長からの意見	市長等からの回答
意見1 学校給食費の無償化について	
<p>【上三田自治会】 ■小・中学校の給食費無償化については、大変喜ばしいですが、財源はどうなっているのでしょうか。厚木市の財政は豊かだと聞いていますが、新規の財源があるのでしょうか。別の事業を減じるのでしょうか。</p>	<p>■小・中学校の給食費の無償化については、小・中学生を育てる家庭の負担を軽減し、子どもたちの健やかな成長に欠かせない、安心して充実した食の環境を社会全体で支えるため実施するものです。 対象となる児童・生徒数は、公立の小・中学校、私立の小・中学校、その他特別支援学校などに通う約16,200人で、概算額は現在の基準で算出すると約7億2千万円と見込んでいますが、昨今の物価高騰により、今後変動する可能性があります。 給食費無償化の財源については、国においても議論されていることから、国の動向も注視しながら、財源確保に努めていきます。 今後のスケジュールについては、あらゆる世代の市民の皆様のお考えをお聴きするため、7月に無作為抽出によるアンケート調査、秋にはパブリックコメントを実施し、12月の市議会に条例改正案の提出を予定し準備を進めており、令和6年4月から小・中学校の給食費の無償化を目標としています。</p> <p style="text-align: right;">(担当課: 学校給食課)</p>
意見2 本厚木駅北口の再開発について	
<p>【上三田自治会】 ■市の玄関口である本厚木駅北口は、残念ながらその機能を十分に果たしているとは思えません。駅前の一等地に並ぶのはパチンコ店やカラオケ店、金融関係のビル等ばかりで、今は、近隣の座間市や海老名市、平塚市などに足が向いているのが現状です。 本厚木駅南口の再開発は上層階がマンションとなり、さみしく思います。北口はどのように再開発されるのでしょうか。</p>	<p>■本厚木駅周辺においては、昭和50年代以降、全国でも注目されるほどの再開発が進み、街はにぎわっておりました。その後、時代の変遷とともに近隣の環境も変わり、我が国全体では少子高齢化や人口減少が顕著となってきています。駅周辺の高度化されたビルにおいては、老朽化が進んでいる建物もあります。 こうした中、私は魅力あふれる街を再度作っていくべきであると考え、本厚木駅の生まれ変わりを公約として掲げました。 現在は、バスセンターが2か所あり訪れる方にとっても分かりにくい等の課題も整理しながら、本厚木駅北口とその周辺の中町第2-2地区等を面として捉え、本庁舎跡地の有効活用も見据えながら、本厚木駅北口の「生まれ変わり」を目指し、検討を重ねているところです。市民の皆様の期待に応え、全国から憧れを抱かれるまちを目指して、再開発に取り組んでいきます。</p> <p style="text-align: right;">(担当課: 行政経営課、市街地整備課)</p>
意見3 小・中学校の統廃合について	
<p>【上三田自治会】 ■小・中学校の統廃合については、公民館区と学校区が異なるようにしていただきたいです。</p>	<p>■小・中学校の統廃合については、これまでの地域の歴史や文化を分断してはならないと思っています。睦合地区においても、保護者や地域の皆様としっかりと話し合っ、子どもたちにとって最適な教育環境となるよう取り組んでいきます。</p> <p style="text-align: right;">(担当課: 教育総務課)</p>

意見4 あつぎの農業の振興支援について(厚木産米)

<p>【上三田自治会】 ■ここ数年、物流倉庫の建設が相次ぎ、三田の田園風景は一変してしまいました。これの大きな一因として圏央道の開通があると思います。 中津川の水で育つ、味の良いと評判の「三田米」も田が減ってしまい、食すことができなくなってきています。 農業が停滞してしまう恐れがあるので、農業の振興支援に注力してほしいです。</p>	<p>■三田のお米は、私も毎年おいしくいただいています。 厚木産のお米を守っていくため、今年の9月から、学校給食に「あつぎ産米」による米飯給食を月に1回実施し、子どもたちが厚木産の米や野菜を味わう機会を増やし、食への関心を高めていきます。また、厚木市独自の農産物をブランド化していくため、市の新たな特産品の調査・研究についての交付金を創設したところです。 今後についても、農地の適正な保全に努めるとともに、新鮮で安心・安全な農畜産物の地産地消を積極的に推進し、持続可能な厚木の農業の実現に取り組んでいきます。</p> <p>(担当課:農業政策課、学校給食課)</p>
--	---

意見5 あつぎの農業の振興支援について(新規就農)

<p>【中三田第1自治会】 ■今後のあつぎの農業について考えると、地産地消も大切ですが、農業後継者が少ないなか、最近では、市外から転入してきて新規に就農する方がいられます。こうした人は、農協の農業塾などを利用して勉強しながら、農地の管理が難しくなった方から農地を借りて農作物を生産している場合があります。 今までの農業は儲かるものではありませんでしたが、農業で頑張ってみようと思っている方が増えているようなので、厚木市とJAあつぎで連携して、こういった方たちを支援していただけないでしょうか。</p>	<p>■新規就農者には、機械や設備への投資や農地の確保、技術の習得、所得の安定化等、農業経営に対して様々な課題を抱えていると認識しています。 市としましても、JAあつぎと連携しながら、支援等について取り組んでいきます。</p> <p>(担当課:農業政策課)</p>
---	--

意見6 自治会の加入促進について

<p>【上三田自治会】 ■自治会加入者の減少傾向が続いています。災害発生時において、自治会は重要な役割を果たすので、地域に新しく引っ越してきた方が自治会に加入するように、自治会でも努力しています。 市としても何か協力していただけないでしょうか。</p>	<p>■自治会の加入率の低下は、全市的な課題と認識しています。 自治会によっては、子どもたちが参加しやすいイベントなどを開催し、子育て世代の未加入世帯が自治会に参加するきっかけを作っているところもあります。 また、他市の自治会の事例となりますが、自治会連絡協議会が主体となり、自治会に入っている人に対して、地域の店舗で利用できる割引券等の特典を付ける取組を行っているところもあります。 自治会に入るメリットは様々ありますが、災害発生時には自治会が大きな役割を果たすという共助の面についても、市として伝えていきます。</p> <p>《実施日以降の対応状況等》 ■自治会の加入促進に向けた一つの取組として、自治会の負担軽減に努めています。 現在、市からの依頼事項について全庁照会を行い、より効果的な改善方法について、自治会連絡協議会と協議を進めています。 また、自治会費の集金などを始めとする自治会の運営に関する課題については、自治会長の皆様を対象としたアンケートを実施し、他自治会で参考となるような事例・取組を、市全体で共有していきます。</p> <p>(担当課:市民協働推進課)</p>
---	---